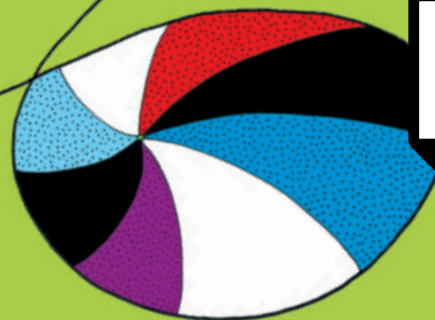
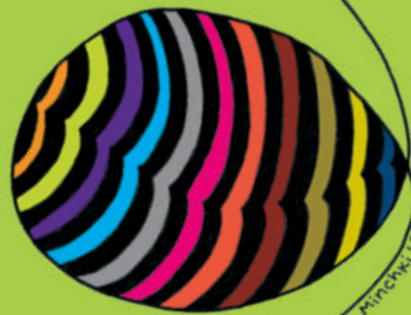
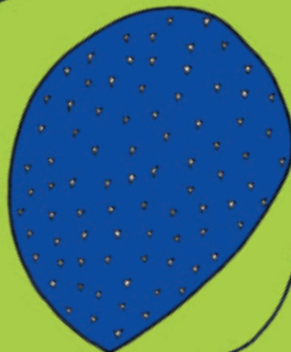


ポ



世界中の
「新しい音」が聴ける
フェスティバル

ン



ボンクリ
前夜祭
10.1(金)

ク

"Born
Creative"
Festival 2021

10.2 (土)

リ

ようこそボンクリへ！

本日は、“Born Creative” Festival (ボンクリ・フェス) 2021にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。今回で、5回目のフェスティバル開催を実現できましたことは、ご来場いただいた皆様、出演アーティストの皆様、そして、様々な形でご支援下さった皆様のご協力の賜物と、関係者一同心より感謝申し上げます。

本フェスティバルは、「今の時代の音楽をより多くの人々に楽しんでいただきたい」という思いから、世界的に活躍する作曲家 藤倉大氏をアーティストック・ディレクターに迎え、その融通無碍な感性で選んだ世界中の「新しい音」を、あらゆる人々に楽しんでいただくという企画です。

当初の予定では、海外在住アーティストを含めたプログラムを組んでおりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、日本で常に「新しい音」を探求しているアーティストたちに出演いただき、創造性が溢れるプログラムといたしました。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、皆様が安心してお楽しみいただけるような配慮を各所に施しています。皆様にもご協力いただく場面もありますが、どうぞ「新しい音」に浸る2日間を存分にお楽しみいただけますと幸いです。

改めまして、本公演の実現のためにご協力いただきました全ての皆様に、厚く御礼申し上げます。

東京芸術劇場

アーティストック・ディレクター：藤倉大

プロダクション・マネージャー：關秀哉

舞台監督：山眞理恵 原口佳子 伊藤ひでみ 宮沼康弘 杉田健介 深野賢一

山谷怜 栢永啓介（ニクステージワークス）

音響オペレーター：小内弘行 田中健祐 水野亮 阿部葵 西嶋佑香

柳澤玲奈（株式会社ジョイサウンドプロモーション）

照明：杉本成也 奥村誠志郎

映像技術：阿達直樹（株式会社アダチ）

配信：白石安紀

ビジュアルデザイン：秋澤一彰（秋澤デザイン室）

イラスト：Milena Mihaylova

ホームページ制作：ディップス・ブラネット

【東京芸術劇場スタッフ】

プロデューサー：鈴木順子

技術統括：安田武司

音響プラン・技術統括補：石丸耕一

照明プラン・キャプション字幕：新島啓介

キャプション字幕：安藤達朗

舞台：松島千裕 鈴木久仁日呂 藤田満

照明：井上武憲 川守田英樹 早川美紀子 諏訪明子

音響：安藤達朗 永田久美子 中野雅也 齋藤泰邦 野島旭貴

制作・運営統括：大島千枝

制作：山下直弥 曾宮麻矢

運営：出口マミ 中村よしき 鋤田千里 三浦幸恵 今井俊介

機堀応彦 柳澤藍 首藤明彦 栄咲季 前久保諒

広報：前田圭蔵 原和美 久保風竹 山口彩

票券：井上由姫 奥村和代

インターン：小室風樺 杉原萌花

『ボンクリ・フェス』5周年に寄せて

ボンクリ・フェスもう5歳！もともと1回だけ、という予定でやってみたフェス。
僕が聴いてみたい音楽、もっと知りたい音楽、僕が学びたいと思うアーティストにお願いして
出てもらっているこのフェス。僕は常に自分から遠い音楽の感性を持つアーティストに惹かれるので、毎年学ぶことも多い。出演してくださったアーティストは「来年も出たい！こんなのを
来年したい！」と言ってくださるし、「いつか端っこで良いので出たい」と人気アーティスト
の方々からも言うてくださるフェスになりました。
毎年思うのが、世界にはこんなに面白い音楽が作られ、発表されているんだなあ、ということ。
世界のいろんな人が、違う文化、全く個人的なユニークな視点から、「新しい音とは」と作る
のが音楽作り。そんな人たちが世界中にいて、紹介したい音楽やアーティストが多すぎて、
毎日ボンクリでも良いくらい。
これからも、どんどん新しい音を追求するアーティストを紹介できる特別なフェスになれば、
と思います。

藤倉大（作曲家／ボンクリ・フェス2021 アーティスティック・ディレクター）

藤倉大
Dai Fujikura

作曲家
ボンクリ・フェス2021
アーティスティック・ディレクター
Composer
Artistic Director

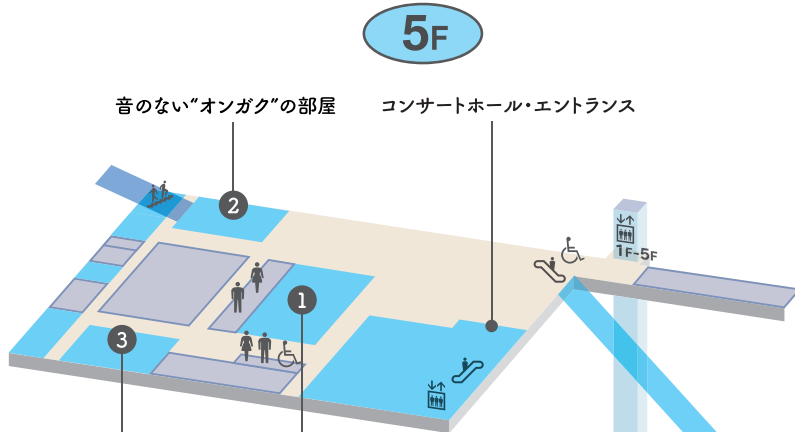
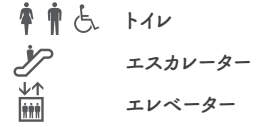


©Aif Soibakken

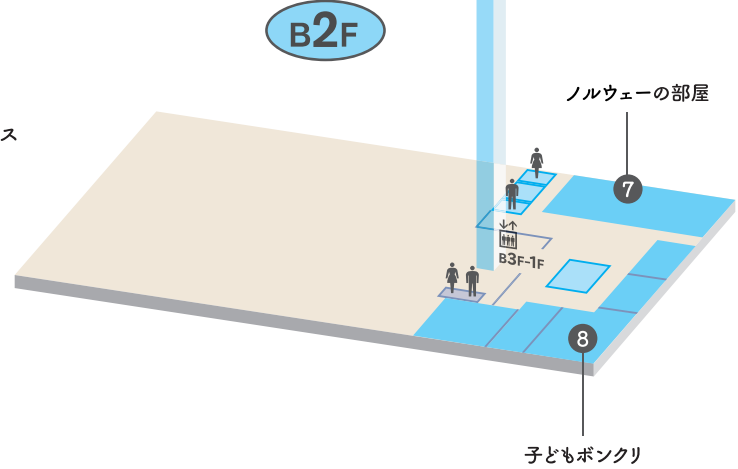
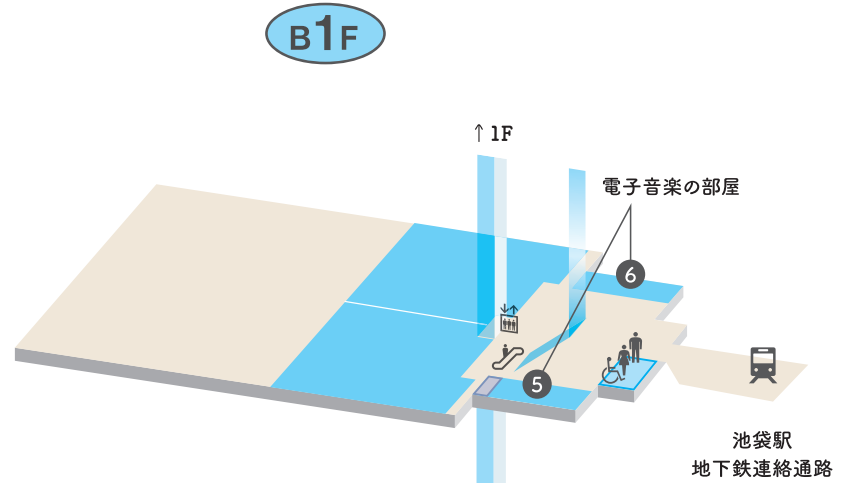
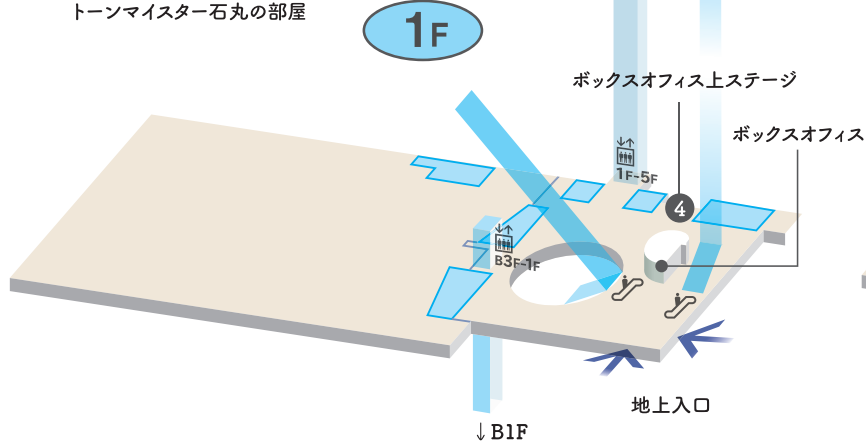
大阪生まれ。15歳で単身渡英しベンジャミンらに師事。数々の作曲賞を受賞、国際的な委嘱を手掛ける。15年にジャンゼリゼ劇場、ローザンヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱によるオペラ《ソラリス》を世界初演。19年に尾高賞、文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。20年にオペラ《アルマゲドンの夢》を新国立劇場で世界初演。数々の音楽誌において、その年のオペラ上演におけるベストに選出された。近年の活動は多岐に渡り、リモート演奏のための作品の発表や、テレビ番組の作曲依頼も多数。録音はソニー・ミュージックジャパンインターナショナルや自身が主宰するMinabel Recordsから、楽譜はリコルディ・ベルリンから出版されている。

<https://www.daifujikura.com/>

フロアマップ
Floor Map



笙の部屋
トーンマイスター石丸の部屋
ボンクリ前夜祭「糸と絲の部屋」
ノマドの部屋／箏の部屋



10.2(土) スケジュール Schedule

★新音楽視聴体験「音のVR」 時間 13:00～16:30

コンサートホール内1階客席バーラウンジにて体験コーナーを実施いたします。

※スペシャル・コンサートのチケット購入者のみ対象。

協力=KDDI株式会社

	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	20:00	21:00
コンサートホール(5F-7F)						ロビー開場		スペシャル・コンサート										開場	大人 ボンクリ	
① ギャラリー1(5F)					ノマドの 部屋												箏の部屋		入退場 自由	
② ギャラリー2(5F)								音のない“オンガク”の部屋 パフォーマンス&トーク												
③ シンフォニースペース(5F)			笙の部屋					音のない“オンガク”の部屋 展示“オンガク”が視える? 視えない?” 入退場自由							トーンマイスター石丸の部屋					
④ アトリウム ボックス オフィス上ステージ(1F)								10:30～10:40 アトリウム・コンサート												17:20～17:30 アトリウム・コンサート
⑤ アトリエイースト(B1F)																				電子音楽の部屋 入退場自由(11:00～19:00)
⑥ アトリエウエスト(B1F)																				電子音楽の部屋 入退場自由(11:00～19:00)
⑦ リハーサルルームL(B2F)																				ノルウェーの部屋 入退場自由(11:00～19:00)
⑧ リハーサルルームM3(B2F)			子どもボンクリ																	

②(展示のみ)、④～⑦のプログラムは無料でご覧いただけます。

※やむを得ぬ都合により、スケジュールが変更になる場合がございます。

ボンクリ前夜祭

糸と絲の部屋

The eve of Born Creative Festival Japanese Strings and Shakuhachi's Room

日時 10.1(金) 19:00~20:00

会場 ギャラリー1 (5F)

演奏 本條秀慈郎(三味線) 木村麻耶(箏)

LEO(箏) 小濱明人(尺八)

Hidejiro Honjoh (Shamisen), Maya Kimura (Koto),
LEO (Koto), Akihito Obama (Shakuhachi)

藤倉大からの
ミニ・コメント



日本には本当に素晴らしい演奏家が溢れています。それに、日本が世界で一番高いクオリティを持つ音楽分野は、当たり前ながら邦楽の世界。パンデミックが続く事で、急速こうして素晴らしい邦楽奏者を集めて一つの部屋をすることができるようになりました。三味線の糸と二人の箏奏者による箏の絲が、スター尺八奏者のゲストを迎えて、クセナキスを含み海外の作曲家と日本の作曲家がチャレンジした邦楽器の為の作品をお披露目します。

Program notes

♪ ヴィージェイ・アイヤー：ジューヴァ (2019)

Vijay Iyer: Jiva

※一部抜粋

「ジューヴァ」とはサンスクリット語で「生命力」にあふれた生体あるいは物体を意味し、私が三味線に抱いた印象そのものです。この魂とでも言うべき力は「さわり」に潜んでいるように感じられ、また、この共鳴機構はインドの伝統音楽では「ジャヴァリ」あるいは「ジヴァリ」と呼ばれています。そして、タンプーラという楽器では、この共鳴効果を生む絹糸のことを「ジューヴァ」と呼ぶのです。(ヴィージェイ・アイヤー)

※ニューヨーク・ジャバソサエティ委嘱作品

♪ 藤倉大：カッティング・スカイ

Dai Fujikura: Cutting Sky for Koto and Shamisen

Cutting Skyは「オケアノス」サイクルの第3楽章として書かれています(ただし、各楽章は独立して演奏可能)。このサイクルは、日本の伝統楽器と西洋楽器を組み合わせられています。Cutting Skyは、撥弦楽器である箏に合わせて、ヴィオラはギターピックで演奏されます。ピック演奏のヴィオラが箏の延長という感じでしょうか。

よって、架空の楽器、スーパー箏になるような感じ。「オケアノス」サイクルの残りの4つの楽章は流動的な構造と感触を持っているので、この楽章に、最も鋭い剣で空気を切るように、緊張感を持たせたかったのです。

[箏と三味線ヴァージョンについて]

この作品が書かれて15年後の2021年。当時は三味線という楽器を知らなかった僕。2014年に書いた三味線ソロの作品「neo」をさかいに、たくさん三味線のために曲を書いた。2020年の春からは、自分自身も三味線を習い始めたりもした。そこで、ふと分かったのが、15年前の2006年、僕は知ら

ずに三味線の音楽をヴィオラに書いていたのだ。その証拠に、ギターピックで弾かれるこのヴィオラのパートが、ギターピックより何十倍も大きな三味線の撥で、ほとんど音符を書き換えることなく、三味線で演奏が可能。こうして、箏と三味線の新たなバージョンができた。いや、これが元々のヴァージョンなのかもしれない、ただ僕が知らなかっただけで。(藤倉大)

♪ フアン・ホセ・エスラヴァ：線のあいだ

Juan José Eslava: ENTRE LINEAS

※一部抜粋

チューニングは特殊な4分の1音に調律されており、音程の不安定な要素が和楽器の特性を生かされているように思う。作曲者は京都の龍安寺の5組の石をイメージし、箏の伝統的な奏法「押す」「引き色」「突き色」等を用いて静謐な部分と壠を切ったような部分の2種類の対比を表している。その表現が入り乱れ、ノイズや余韻の揺れの中に音が組み合わせていくことにより世界がさらに広がっていく。旋律の線の間、箏の絃の線の間に耳を澄ませて感じていただきたい。本日は時間の都合上、抜粋で演奏させていただきます。

(木村麻耶)

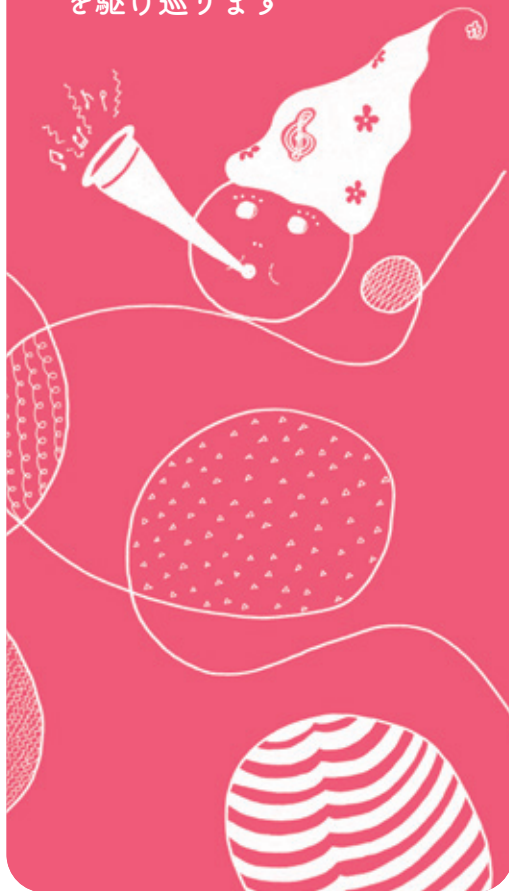
♪ ヤニス・クセナキス：入陽

Iannis Xenakis: Nyuuo

「入陽(日没)」はアンジェ・フェスティバルと、東京の「邦楽四人の会」の依頼で作曲され、「四人の会」に献呈された。「入陽」は、「四人の会」のわたしの作品への興味と、わたしが彼らの演奏に熱心に耳を傾けるなかで生まれた。この作品は、いわば互いの願いが作用しあった結果なのである。日本の伝統音楽は何時でも躍動的で、彼らの力はわれわれを不可能の彼方まで連れ去る。「入陽」でわたしは東京の伝統と西洋の書法を結び付けようとしたが、それはある種の挑戦であった。(ヤニス・クセナキス)

誰でも楽しめる 無料プログラム

ボンクリ精神あふれるオン
ガクが東京芸術劇場の館内
を駆け巡ります



アトリウム・ コンサート

Atrium Concert

会場 ボックスオフィス上ステージ (1F)

〔鑑賞におけるお願い〕ご鑑賞の際はほかの方とのソーシャル・ディスタンスの確保にご協力ください。

Program & Program notes

● 10:30~10:40

星篋の会 [東野珠実(笙)、三浦礼美(笙)、五月女愛(笙)]

尺八アンサンブル 風雅竹韻 [村澤實山、柴香山、

長谷川将山、風間禅寿、吉越瑛山、笠原道樹]

Ensemble Hoshigatami

[Tamami Tono (Sho), Remi Miura (Sho), Ai Saotome (Sho)]

Fugachikuin (Elegant Bamboo Ensemble)

[Hozan Murasawa, Kohzan Shiba, Shozan Hasegawa

Zenji Kazama, Eizan Yoshikoshi, Douju Kasahara]

♪ 東野珠実：円環の星篋

—— 笙と尺八合奏のための ——

Tamami Tono: Hoshigatami VII

“Annulus” for Ensemble of Sho and Shakuhachi

笙は、呼吸の圧により金属リードに発生する微小な振動を竹管に共鳴させ、さらに複数の管を円環に束ねることで和音を紡ぐことが特徴の楽器です。一方、尺八は、ただ一本の竹管で多様な奏法と音色をもって音楽を描き出すミラクルな楽器です。この作品では、いずれも豊かな倍音がハイパー・ソニック・エフェクトをもたらす笙と尺八を円環に配し、実空間を共有する一つの楽器を構成する事で、響の

銀河を現出します。尚、この作品はボンクリならではの新しいアプローチとして、アトリウムと大ホールの二つの空間に對をなして生まれます。

異なる空間で、異なる響の色彩を、奏者一体の息吹とともにお楽しみください。(東野珠実)

● 17:20~17:30

本條秀英二 (三味線)

Hideeiji Honjoh (Shamisen)

♪ 本條秀太郎：涅槃

Hidetaro Honjoh: NEHAN

篠笛と姿婆羅調子の三味線で釈迦の涅槃図を表現したもの。“人”と“火”の最初の出会いと同じように、三味線との関わり無限の命を感じます。すばらしい音楽家との出会いは、あたかも“火”と“人”との出会いと同じように思われます。火の持つ、祈り、静寂、生産、浄化、造形之美しさと火への崇敬と情念を、私の情熱の炎で表したいと思います。

(本條秀太郎)



東京芸術劇場の建物のなかで、大ホールの他に気持ちよく響く場所で演奏されるアトリウム・コンサート。今回も楽しみな東野珠実さんの笙と尺八の作品。それだけでも、あの吹き抜けの空間で、長いエスカレーターを眺めながら、乗りながら、聞いてみたい！あと、今回ボンクリ初登場のアメリカ生まれの三味線奏者、本條秀英二さん。しかも演奏される作品は、本條秀太郎さんの作品。本條流三味線の創設者の作品。楽しみ！

音のない “オンガク”の部屋

時間 11:00~19:00

会場 ギャラリー2 (5F)

Program

● パフォーマンス & トーク ※事前申込制

①11:00~11:45 ②17:30~18:15

● 展示「“オンガク”が視える？ 視えない？」

①12:00~17:10 ②18:30~19:00

※入退場自由



芸劇に社会共生を担当するチームがあります。そのチームと共同でボンクリでも何かできないかなあと話題に上がりました。

雫境さんは、僕も参加した東京藝術大学主催「七感で楽しむシアター」というイベントで作品を発表されており、僕はそれを観て、聴いてびっくりしたのを即座に思い出しました。芸劇ともつながりのあった雫境さんにボンクリの趣旨をざっとお伝えし、この部屋をお任せしました！

雫境さん、牧原依里さんの文章にある、「耳から入る音そのものの存在を知らない部屋」というのはいったいどういうものなのか、これは体験してみないと分からないと僕は思うので、楽しみ！

Program notes 文：雫境、牧原依里

耳から入る音そのものの存在を知らない部屋です。

耳で世界を捉える人が多数という中で、音楽は耳だけでなく、目や皮膚、骨、内臓などの身体にも影響しています。

この部屋では「見る」だけで音楽のようなものを感じてみてください。ろう者の多くの生活は視覚的なものを抛り所にしていきます。ゆえに音声日本語とは文法、認識、把握が異なる、日本語で会話しています。自然に出てくる日本語の手形や動きの緩急、弛緩などから垣間見られる、視覚的なリズム、メロディなどが“オンガク”として昇華する可能性を探します。

● パフォーマンス&トーク 『はじまりについて』

出演：佐沢静枝 那須映里 西脇将伍

Shizue Sazawa, Eri Nasu, Shogo Nishiwaki

共同演出：雫境 牧原依里

DAKEI, Eri Makihara

もしこの世界のマジョリティがろう者だったらオンガクはどんな風に生まれていったのか？ ろう者5人が話し合いながら感じた「ろう者のオンガク」の可能性をパフォーマンスで披露します。その後このパフォーマンスの過程や背景、今後の展開などをお話します。

● 展示「“オンガク”が視える？ 視えない？」

「“オンガク”が視える？ 視えない？」は無音の映像を提示し、音楽のようなものを感じるかどうか試みる展示です。

風景、手話を基にした行為など、15秒~1分の短い映像が12本あります。対面した2つの壁にそれぞれ6本の映像をプロジェクターから繰り返し投影します。来場者にそれぞれの映像に“オンガク”を感じたら紙にチェックしていただき、集計結果をSNSなどで公表する予定です。

電子音楽の部屋

Electronic Music Room

時間 11:00~19:00

会場 アトリエイースト、
アトリエウエスト (B1F)

監修 檜垣智也

Supervisor: Tomonari Higaki

入退場
自由

出展アーティスト

天野知亜紀、網守将平、池田拓実、牛山泰良
梅沢英樹、大塚勇樹、岡田智則、佐藤亜矢子
せきみつほ、田代啓希、中島弘至、永松ゆか
新美術 with ながねっ子、林恭平、アルマンド・パリス
ミシュール・ボカノウスキー、馬 篤茹、松宮圭太
マイリス・ラーナル、ヴァンサン・ロブフ、ヤマシタユミ
YOSHI WADA、渡辺愛、渡邊裕美

Chiaki Amano, Shohei Amimori, Takumi Ikeda,
Taira Ushiyama, Hideki Umezawa, Yuki Ohtsuka,
Tomonori Okada, Ayako Sato, Mitsuho Seki,
Hiroki Tashiro, Koji Nakajima, Yuka Nagamatsu,
Toru Niimi with Naganekko, Kyohei Hayashi,
Armando Balice, Michèle Bokanowski, Yunju Ma,
Keita Matsumiya, Maylis Raynal, Vincent Laubeuf,
Yumi Yamashita, YOSHI WADA, Ai Watanabe,
Hiromi Watanabe

「電子音楽の部屋」の
詳細プログラム、スケジュールについては
右記のQRコードからご覧いただけます。



監修ノート

檜垣智也

「電子音楽の部屋」は、「入退場自由、子どもから大人までどなたでも、無料で」を、コンセプトにボンクリ1回目から継続している人気企画です。この部屋は、11時から19時までノンストップで電子音楽を流していますので、お風呂に入るように、いつでも音浴へいらしてください。(お風呂と違って、なんの準備もありません!)

今回のメインコンポーザーは、フランスの電子音楽家のミシュール・ボカノウスキー(1943~)です。「天使L'ANGE」で有名な映画監督でパートナーのパトリック・ボカノウスキーとコンビを組んで、数多くの映画音楽も残しています。彼女の作風は、オープンリールテープレコーダーで作った瞑想的なループに、メロディアスなキーボードサウンドが絡む独特なサウンドで、常にミステリアスな雰囲気を保ちます。(プログラムA~E)

他には、音楽から美術まで、シリアスからポップまで領域を自由に横断する新世代ユニット「Hideki Umezawa + Shohei Amimori」の電子音響作品とボンクリに合わせたそれぞれの新作、さらに藤倉さんの発案で今年亡くなられたニューヨーク在住の実験音楽家WADA YOSHI(1943~2021)のライブレコーディングを追悼の意を込めてプログラムしました。(プログラムFとG)また今回は20名の作曲家から新作が届きました。まだだれも聴いたことのない、真新しい音楽にご期待ください。(プログラムH~K)

池袋のと真真中に1日だけ出現する、だれも知らない電子音楽に出会えるリスニングルームで皆さんをお待ちしています。



電子音楽の部屋は、特に楽しみ。僕の知らない作曲家の方達の作品がいつも沢山流れるから。

そして、電子音楽は特に他の音楽のジャンルにある垣根を通り越したところにある、真の音楽だと思う。だからいつも、いろんなバックグラウンドをもった方達の音楽が流れる。電子音楽をプロとしてやっている方、別に職業をお持ちで、お仕事から帰ってから電子音楽作曲に専念する方、学生のクリエイター、など。いろんな人達が、自分にとって聞いたことのない新しい音を作りたいという一心で作っている作品を一挙公開できるのは本当に嬉しい。

ノルウェーの部屋

Norwegian Room

時間 11:00~19:00

会場 リハーサルルームL (B2F)

入退場
自由

「ノルウェーの部屋」の
詳細プログラム、スケジュールについては
右記のQRコードからご覧いただけます。



Program

♪ Snow Catches on her Eyelashes (世界初上映)

~オスロ、セントラレンからのライブコンサート~

Snow Catches on her Eyelashes - live concert
from Sentralen, Oslo - (World Premiere screening)

映像出演 アイヴィン・オールセット (ギター)
ヤン・バング (エレクトロニクス)

Eivind Aarset (Guitar) Jan Bang (Electronics)

♪ ニルス・ペッター・モルヴェル "Frameworks" (抜粋) —コングスベルグ・ジャズ・フェスティバル のための委嘱作品

Nils Petter Molvær Excerpt from "Frameworks"
- this year's commissioned work for Kongsberg Jazz Festival

映像出演 ニルス・ペッター・モルヴェル (トランペット)
ヨハン・リンドストロム (ギター)
ジョー・バーガー・ミューレ (ベース)
エルランド・ダーレン (ドラム、打楽器)
ハーブリート・パンサル (バイオリン)
ヴラディスラフ・ディレイ (エレクトロニクス)

Nils Petter Molvær (Trumpet),
Johan Lindstrom (Guitar),
Jo Berger Myhre (Bass),
Erland Dahlen (Drums/Percussion),
Harpreet Bansaal (Violin),
Vladislav Delay (Electronics)



パンデミックのため、ノルウェーからアーティストが来れなくなってしまったのですが、なんと、ヤン・バング、アイヴィン・オールセットが全くの未公開の演奏の動画がある、とってくれました。なので、今回のボンクリが初公開となります。それと同時に、ニルス・ペッター・モルヴェルも最近作った演奏動画があるようで、映像を提供していただきました。ノルウェーの部屋も、本来の40分の予定の2倍近くで、公開します!

新しい音への扉を開く ワークショップコンサート

各部屋：1,000円(定員あり)

事前
申込制



当時9歳の藤倉みなの絵

子どもボンクリ

Born Creative Festival for Kids

時間 10:30~12:00

会場 リハーサルルームM3 (B2F)

案内人 酒井雅代 山崎朋 柳澤藍

Masayo Sakai, Tomo Yamazaki, Ai Yanagisawa

演奏 小濱明人(尺八) 本條秀英二(三味線)

吉澤延隆(箏) 藤舎夏実(囃子)

Akihito Obama (Shakuhachi), Hideeiji Honjoh (Shamisen),
Nobutaka Yoshizawa (Koto), Natsumi Tosha (Hayashi)

Program notes

音とカラダで表現する「子どもボンクリ」は、ボンクリ始まって以来の新企画。今回、東京藝術大学一般公開講座から始まったアートプログラム「ムジタンツ」のメンバーが案内人となって、NHK Eテレの音楽教育番組「おんがくのおもちゃばこ」のために藤倉大が作曲した作品「はじけるとつつる」を題材に、身体を動かしながら、音楽家たちと創作し、新しい音の体験を探っていきます。豪華に三味線・箏・尺八・小鼓など和楽器が大集合！あまり間近で聴いたり見たりする機会がない楽器の音色や演奏する姿にワクワクするはず！楽器の音に合わせてカラダを動かしたり、カラダの動きから演奏家が色々な音や音楽をつくり出します。演奏家と案内人と楽しいセッションを始めよう！

ムジタンツとは？

音楽（Musik）とダンス（Tanz）を組み合わせた造語です。音楽を専門にする酒井雅代と身体表現を専門にする山崎朋が互いの専門性を持ち寄り、音楽とダンスを融合させた新しい形のワークショップを開発。2018年に東京藝術大学一般公開講座「藝大ムジタンツクラブ」としてスタートしました。音楽を聴いて、遊んで、楽しみ、探求し、体感しながら作品との「対話」を目指すとともに、価値観や創造力を広げられるようアプローチしています。



この前、僕と演奏家の皆さん、そしてムジタンツのメンバーで、子供ボンクリの部屋の音楽、体験と一緒にデザインしました。この部屋の凄さは、経験豊富なムジタンツのメンバーと、日本の伝統楽器の奏者にあると思います。というのも、西洋楽器と違い、日本の伝統楽器は、演奏面でも自由が効きますし、体の動きに合わせて、動きそのままの音を出したりすることができるからです。あと、日本の伝統文化ならではの、何が起きるかかわからないのに、合奏ができてしまったりするところも魅力です。参加してくださる子供達による体を全部使った自由な音の表現が楽しみです！



笙の部屋

Sho's Room

時間 11:00~11:45

会場 シンフォニースペース (5F)

出演 星筐の会

〔東野珠実(笙) 三浦礼美(笙) 五月女愛(笙)〕

Ensemble Hoshigatami

〔Tamami Tono (Sho), Remi Miura (Sho), Ai Saotome (Sho)〕

Sho as Breathing Media

文：東野珠実

笙は、日本において1300年以上の歴史を重ねる雅楽器の一つであり、そのルーツをたどれば、三千数百年前の中国に至ります。一聴して人々を魅了するその音色は、複数の管を円環に束ね和音を紡ぐことにより合成される豊かな倍音に秘密があります。笙の生み出す高周波音響は、ハイパー・ソニック・エフェクトとも呼ばれる近年の研究で、脳機能や感性情報処理に大きな影響を及ぼすことが科学的に証明されています。さらに〈吹く・吸う〉という呼吸の全循環を直接金属リードに伝え、そこに発生する微小な振動を竹管に共鳴させるという、生命維持に直結する有機的かつメカニカルな発音機構を持っています。

いにしへの時代から、神とひとを結ぶメディアとして、心を司る役割をも担ってきた特別な存在である笙。Born Creative Festival 2021「笙の部屋」では、その魅力を、人文・科学の両面から解き明かし、更に、現代のツールを

活用して音楽表現の可能性を広げる先端的な創造の取り組みを、演奏と解説を交えてご案内します。

東野珠実作曲

「Möbius Link 1.1」

「dinery2 for Sho and Computer」 ほか

笙と先端テクノロジー紹介

藤倉大作曲

「Longing from afar」 雅楽編

KDDI 雅楽〈音のVR〉 ほか

東野珠実公式サイト：<https://shoroom.com/>

協力：KDDI 〈音のVR〉

<https://time-space.kddi.com/otonovr/gagaku/>



僕の中では、笙は世界最古の電子音楽、という感じに聞こえる。綺麗な音、だけではなく、違うディメンションが見えてくる感じの音。

僕が聞いたところ、ヨーロッパのホテルで笙を練習していると、ホテルの外までまるまる聞こえる音なのに、不思議と隣の部屋から苦情が来ないそう。世の中に浮いている音を溶かしてしまふ音、という感じだろうか。バッハが生まれる1000年も前からある、大昔の楽器が、テクノロジーと融合するのは、音的にどの楽器よりも自然な感じなのが不思議でならない。

ノマドの部屋

Ensemble NOMAD's Room

アンサンブル・ノマドメンバーによるコンサート

時間 12:15~13:00

会場 ギャラリー1 (5F)

演奏 アンサンブル・ノマド

Ensemble NOMAD

Program notes 文:佐藤紀雄

♪ラウリ・ポラー (1977~): 「キャビンと隠れ家」

より第2曲「ズアオアトリ」、第7曲「夜」(日本初演)

Lauri Porra (1977~): No.2 "Peippo" and No.7 "Night" from "Cabins & Hideouts" (Japan Premiere)

シベリウスを曾祖父に持つラウリ・ポラーはフィンランドのヘヴィメタル・バンド、ストラトヴァリウスのベーシストとして活躍している。一方、彼はベースの演奏だけでなく作曲家としても北欧に特徴的な清澄なアンビエント作品を書いている。今回演奏する作品は編成の異なるいくつかの作品から成る曲集だが、いずれもエレクトロニクス音と一緒に演奏されるものだ。

ラウリ・ポラーさんは、ラウリさんのお友達が僕の作品を録音する、ということでメールをしてくれました。もともとラウリさんの指揮者の奥さんに指揮してもらったり僕はしていたし、彼のバンドも知っていました。これをきっかけにしょっちゅうメールをする仲になり、お互いの音楽を聞き合っていたところ、彼のユニークな音楽に出会いました。

♪コンロン・ナンカロウ (1912~1997):

スタディNo.18、スタディNo.19

Conlon Nancarrow (1912~1997):

Study No.18, Study No.19

アメリカに生まれ音楽の勉強を行ったが1936年に起こったスペイン内戦に人民戦線側で戦ったことからアメリカへの再入国を拒否され亡命先のメキシコに居をかまえる事となり、そこで生涯を過ごすこととなった。最初は普通の器楽作品の作曲もしたが、自動ピアノを利用する事で人の手では到底実現できそうもない複雑なリズムや対位法が可能となり、その後の作品は主に自動ピアノの作品に集中した。その後、人間業では不可能と思われてたそれらの作品をピアノ・ソロで演奏、また今回のようにアンサンブルに編曲され演奏されるようになった。

♪カイヤ・サーリアホ (1952~): ノアノア

Kaija Saariaho (1952~): NoaNoa

フィンランドはヘルシンキ出身の作曲家で、ライブエレクトロニクスを伴う作品を携えて楽壇への登場した際、その新鮮な音響によって現代音楽の世界に清冽な印象を刻んだ。その後様々な変遷を経たのちも女性らしい細やかな詩情を忘れる事はなかった。タイトルの“ノア・ノア”はポール・ゲーゲンがタヒチ滞在中に書いた随想で、タヒチ語で“かぐわしい香り”の意味。

♪ウンスク・チン (1961~): イモムシの忠告

~オペラ「不思議の国のアリス」より

Unsub Chin (1961~): Alice in Wonderland

- Advice from a caterpillar for solo bass clarinet

ウンスク・チンは韓国のソウル生まれ、1985年以来ドイツに滞在し多くの受賞とともに作曲家としての輝かしい成功をおさめた。作品のテーマは古代ギリシャから韓国の伝統的世界まで多岐にわたっているが、この作品は大規模なオペラ『不思議の国のアリス』の中の一場面である。

ウンスク・チンさんは、僕が大学生の時から仲良くしてくださっていて、いつも僕の大スター大先輩としてリスペクトしています。ウンスクさんの作品は子供が観ても聞いても面白いものが多いのは知っていたので、何かポンクリでもできるものがないか、と探しました。

♪モーリッツ・エゲルト (1927~):

ハンマークラヴィーア第31番「デュアル・バンド」

(日本初演)

Moritz Eggert (1927~):

Hämmerklavier XXXI "Dual Band" (Japan Premiere)

モーリッツ・エゲルトはドイツのミュンヘンで音楽の修行をしたピアニスト兼作曲家である。作曲家として世界の作曲コンクールで多くの賞を獲得し、ドイツ国内で話題となった。作品には演奏家として演奏において経験する身振りの感覚が明確に影響を与えており、演奏する者にも身体的な共振をつよく求めているように見える。このピアノ曲31番には二重バンドの副題が付されているが、ピアニストともう一人の奏者はトイピアノや打楽器などを使ってピアニストの影のように身を挺して纏わりつくのである。



モーリッツ・エゲルトさんとは、初めてマレーシアで大昔会いました。その時以来、ミュンヘンに行ったら泊らせもったり、ロンドンの僕の家遊びに来たりする仲です。オペラのベテラン作曲家で、エンターテイメント要素と芸術性がミックスした、珍しいヨーロッパの作曲家と僕は思っています。音楽も骨太な感じの、力強いものが多い。彼はピアニストとしても有名なので、演奏家作曲家ならでは、の作品がこれだと思う。

トーンマイスター 石丸の部屋

Tonmeister Ishimaru's Room

時間 16:30~17:15

会場 シンフォニースペース (5F)

講師 トーンマイスター石丸、関根愛

Lecturer: Tonmeister Ishimaru, Megumi Sekine



石丸さんは、ああ見えて（笑）実はホールを生き物の用に扱うことができる魔術師のような人。石丸さんを見ると、音って、作った人、演奏した人だけでは、素晴らしい音は出ないんだな、というのが分かる。なぜなら、音は奏でた後、響く場所が最重要だから。奏でられた音に翼が付くような感じだと僕は想像する。そんな響きの専門の人が、いつも聴いている音に注目し、どうやってそういう音ができているのか、を分かりやすく教えてくれる。毎年、僕も特に楽しみにしているこの部屋、今年も楽しみ！

Program notes 文：トーンマイスター石丸

毎年ボンクリで、変なドクター・石丸と、変な助手・愛ちゃんが繰り広げるドタバタ「音の研究所」！今年は昨年大好評だった「シュトックハウゼンとアニメのサウンドエフェクト」の第2弾！カールハインツ・シュトックハウゼンという有名な音楽家が、1960年代に作っていた音楽が、みんなの大好きな日本のアニメのサウンドエフェクトにどんな影響を与えたか、

ひいてはハリウッドの映画への影響も、シュトックハウゼンおじさんが実際にやった音作りを再現して、やってみよう！みんなも、実際に体験できるよ！難しくないし、面白いよ！昨年よりももっと、いろんな「面白い道具」「変な道具」を用意して、みんなを待ってるよ！他にもみんなで、いろんな変な道具や楽器を使って、音を作って、音を出して遊んじゃおう！最後はみんなで「宇宙の音」を演奏してみるよ！「この音、面白い！」「この音、変なの！」と思ったら、その時、新しい音楽が生まれるんだ！生きてるって、音楽だ。

箏の部屋

Koto's Room

時間 18:30~19:15

会場 ギャラリー1(5F)

演奏 道場 [八木美知依 (エレクトリック21絃箏、17弦ベース箏)、本田珠也 (ドラムス、パーカッション)]

Dojo [Michiyo Yagi (Koto), Tamaya Honda (Drums, Percussion)]

Program notes 文：八木美知依

本田珠也はもっとも意志の疎通を感じるミュージシャンです。男っぽくパワフルなドラマーとして知られていますが、実は繊細な演奏も得意とし、大変な勉強家でもあります。彼とは2007年に出会って意気投合し、《エレクトリック箏+ドラムス》という唯一無二のデュオを結成しました。当初は西荻窪の名物ライヴハウス、アケタの店に様々なゲスト演奏家を招いた「アケタ道場」というセッションを定期的に行っていま

したが、私が徐々にエレクトロニクスを用いて音の幅を広げていくと（“道場破り”抜き）2人だけの演奏も充実するようになり、活動範囲が他のライヴハウスそして海外へと広がりました。私が道場で使っている楽器は2面とも電化されています。21絃の音はディストーションやリング・モジュレーターなどで変形させ、17絃ではベースラインをループしたり、オクターバーでオルガンのような音を出したりします。道場の演奏はいつも完全即興です。事前にああしよう、こうしようといった打ち合わせをすることはありませんが、その時の気分や会場の雰囲気によって既存のオリジナル曲が断片的に現れることはあります。さて、今日はどんなハプニングがあるでしょうか？2度と繰り返されない道場の演奏をお楽しみください。



毎年お馴染みの八木美知依さんの部屋。八木美知依さんの部屋は、衝撃的なことが起こる。その証拠に、僕の音楽家の友人も、時々「2年前の八木美知依さんの部屋で起きた楽曲のことを昨日考えていたんですけどね、、、」と話してくる人もいるくらい。

音楽を聴いて、単に「感動した」「涙が出た」という感情ももちろん良いと思うけれど、何年も経っても覚えている、その上反芻する、何度も頭の中で味わえる体験、ということだと僕は思う。今年はいったいどんな部屋なんでしょう！



スペシャル・ コンサート

14:00 開演

13:00 ロビー開場
コンサートホール

出演者

Performer

アンサンブル・ノマド

(指揮:佐藤紀雄) [5, 7, 8, 9]

LEO (箏) [1]

山崎阿弥 (声) [2]

星篋の会 [3]

東野珠実 (笙)

三浦礼美 (笙)

五月女愛 (笙)

尺八アンサンブル 風雅竹韻 [3]

村澤寛山、柴香山

長谷川将山、風間禅寿

吉越瑛山、笠原道樹

八木美知依 Talon [6]

八木美知依 (21絃箏・歌)

磯貝真紀 (箏・歌)

高橋弘子 (17絃箏・歌)

木村麻耶 (25絃箏・歌)

大友良英 [8]

ノマドキッズ [5, 8]

プログラム

Program

世界初公開!!
藤倉大作曲
ボンクリ・フェス開演ベル

1. 藤倉大: 芯座 (世界初演)

Dai Fujikura: Shinza for Koto (World Premiere)

2. 山崎阿弥: 粒と波 (世界初演)

Ami Yamasaki: Particle / Wave (World Premiere)

3. 東野珠実: 円環の星篋

— 笙と尺八合奏のための — (世界初演)

Tamami Tono: Hoshigatami VII “Annulus”

for Ensemble of Sho and Shakuhachi (World Premiere)

4. ヤン・バング & 藤倉大: Night Pôles River

[feat. アルヴェ・ヘンリックセン、アイヴィン・オールセツ]

(世界初演)

Jan Bang & Dai Fujikura: “Night Pôles River”

[feat. Arve Henriksen and Eivind Aarset]

(World Premiere)

5. ジョージ・ルイス: Shadowgraph 5 (日本初演)

George Lewis: Shadowgraph 5 (Japan Premiere)

— 休憩 —

6. 八木美知依: 桃の実 (世界初演)

Michiyo Yagi: Peach Fruit (World Premiere)

7. マリオ・ディアス・デ・レオン: 2匹の蛇の祭壇

Mario Diaz de Leon: Altar of two serpents for two flutes

8. 大友良英: 新作 (世界初演)

Otomo Yoshihide: New Work (World Premiere)

9. 藤倉大: infinite string

Dai Fujikura: infinite string

Special Concert

※4. 「ヤン・バング & 藤倉大: Night Pôles River」は電子音楽作品の上演となります。エレクトロニクス: 永見竜生 [Nagie]

※5. 「ジョージ・ルイス: Shadowgraph 5」を3歳~5歳の子どもたちがホール内で鑑賞します。子どもたちが自由にのびのびと音楽を楽しむ姿をあたたく見守っていただけますと幸いです。



藤倉氏のコメントは
こちらからご覧いただけます。

曲目解説 Program notes

1 藤倉大：芯座 (世界初演) Dai Fujikura: Shinza for Koto (World Premiere)

この作品は箏奏者LEOさんに書いた箏協奏曲の中からの作品。LEOさんは今年、箏協奏曲を初演したばかりで（しかもパンデミックを吹き飛ばすかのように3回も演奏）、またこの後すぐにこの協奏曲の演奏が決まっている。だったら、『芯座』も弾けるだろう！ということで、ちょうど『芯座』としての世界初演の場所を探していたので、今回スペシャル・コンサートのオープニングに、とお頼みしました。（藤倉大）

2 山崎阿弥：粒と波 (世界初演) Ami Yamasaki: Particle / Wave (World Premiere)

わたしという現象は、どこまでのことを言うのだろう。声の粒が随所に触れて響きを起こすとき、それは空間が今このときに孕む生命の流れの様なもので、耳を傾ける私たちが否応なくその波へ運ばれていく。音や音楽の現場は、この場を満たす様々なものが「わたしかもしれない」と予感させ「あなただったかもしれない」と思い出させる。わたしという現象は、出発点／現在地／目的地を喪失した永遠の今という自由のことを言うのだろう。そんな期待を一時の明滅に収める歌というメディアは、誰の口から零れ落ちるときも、美しい粒であり、波ではなからうか。（山崎阿弥）

3 東野珠実：円環の星篋 — 笙と尺八合奏のための — (世界初演) Tamami Tono: Hoshigatami VII "Annulus" for Ensemble of Sho and Shakuhachi (World Premiere)

笙は、呼吸の圧により金属リードに発生する微小な振動を竹管に共鳴させ、さらに複数の管を円環に束ねることで和音を紡ぐことが特徴の楽器です。一方、尺八は、ただ一本の竹管で多様な奏法と音色をもつ音楽を描き出すミラクルな楽器です。この作品では、いずれも豊かな倍音がハイパー・ソニック・エフェクトをもたらす笙と尺八を円環に配し、実空間を共有する一つの楽器を構成する事で、響の銀河を現出します。さて、コロナ禍の2020年、藤倉大作曲「Longing from afar」におけるオンライン合奏に照らし出された社会不安と音楽に託された希望を踏まえ、その返歌として、舞台という付帯にある〈同時空間性〉の充足、加えて円環によって導き出される心の調和にフォーカスして創作しました。ボンクリ50周年の取り組みに敬意を込めて。（東野珠実）

4 ヤン・バング & 藤倉大：Night Pôles River [feat. アルヴェ・ヘンリクセン、アイヴィン・オールセツ] (世界初演) Jan Bang & Dai Fujikura: "Night Pôles River" [feat. Arve Henriksen and Eivind Aarset] (World Premiere)

コンサートホールで電子音楽を聴く、というのはかなり昔から行われていること。2000席近いホールになると、ホールそのものが響く楽器。ボンクリで、ホールの響きを知り尽くしたエンジニアと作品をよく知るエンジニアとで創る空間・時間は、このボンクリに來ないと絶対味わえせん。パンデミックの中、ヨーロッパ中がロックダウンの時、ヤン・バングに「一緒に何か作ろうよ」と声をかけ、目的も無く作り始めました。僕はシンセサイザーを演奏。音作りから何から一からやって。ネット上のファイルのやりとりをする中で、ヤンがボンクリに出演する人たちに声をかけてくれ、素晴らしい演奏が追加されていきました。作業を重ねる中、気がついたらアルバムが出来上がっていた。アルバムは来年リリースされるらしく、その中から長時間かけて、今回のボンクリのためにヤンと僕がコラボをし、初めてボンクリで発表。（藤倉大）

5 ジョージ・ルイス：Shadowgraph 5 (日本初演) George Lewis: Shadowgraph 5 (Japan Premiere)

若い頃、作曲やトロンボーンを学んだルイス氏は電子音楽とコンピューター音楽を学び本格的な作曲活動に入るが、間もなく西洋の伝統的な作品を作曲することから離れ、コンピューターを使ったマルチメディアによるインスタレーションと即興形式の作曲に取り組んでいった。今日演奏するのも、その即興的な演奏を想定した典型的なものだ。いわゆる五線紙による楽譜はなく、インストラクションのようなもので演奏方法が示されており、しかもルールは実に緩やか。奏者の人数も2人から大勢まで、とあっけないほど緩い。どうなるかは演奏してみるまで分からない。（佐藤紀雄）

6 八木美知依：桃の実 (世界初演) Michiyo Yagi: Peach Fruit (World Premiere)

昨年、藤倉大さんがリモート演奏のために作曲した「Longing from afar」を演奏する機会を頂き、様々な流派の名実ともに優れた演奏家たち、そして小学生の生徒1人からなるアンサンブルで試みました。遠隔演奏ですから当然のことながらズレが生じますが、それもこの曲の醍醐味の一つ。加えて個々の演奏に説得力があったので、魅力的に仕上がったと思いました。この経験は改めて音楽の面白さを考えてもら

う機会となりました。本作は共鳴音やアタック、音の揺れや伸びがそれぞれ異なる4種の箏（13絃、17絃、21絃、25絃）に歌を加えて書き上げました。桃畑の夜を想像しながら...（八木美知依）

7 マリオ・ディアス・デ・レオン：2匹の蛇の祭壇 Mario Diaz de Leon: Altar of two serpents for two flutes

アメリカ、ミネソタ州出身のレオンはコロンビア大学で博士号を習得し、コンピューター音楽の研究を深め、現在は大学での教師をしながら作曲だけでなくパフォーマーとしての活動もおこなう。この作品はタイトルからも想像できるように、宗教的儀式や呪術の世界を、二匹の蛇の絡み合う動きをシンボリックに描いたものと思われる。アルト・フルートの深い息音を通して、遠い過去に起こった、言葉以前の音に出会えるかも知れない。作曲家自身はバビロニアのシュメール文明を想起しながら書いたという。（佐藤紀雄）

8 大友良英：新作 (世界初演) Otomo Yoshihide: New Work (World Premiere)

毎年大友良英さんがボンクリのために作品を創ってくださる、という非常にラッキーなフェスです。その代わり、毎回、前日までどんな作品になるか分からない。今年は、昨年に続く新作として、アンサンブル・ノマド、ノマドキッズのこどもたちと「楽しくやれるジャズ的なコンポジション」を考えているらしいので、僕も楽しみに待っているところです。（藤倉大）

9 藤倉大：infinite string Dai Fujikura: infinite string

infinite stringはニューヨーク・フィルハーモニック、NHK交響楽団、アンサンブル・レゾナンスの三者の共同委嘱で書かれた弦楽オーケストラのための作品です。今までに何曲か自分の娘の誕生や発育からインスピレーションを受けた作品を書いてきました。今回はその原点である、受精後の細胞分裂がとんとん行われて、あらゆるDNAの情報が発現し、命が宿る、という事からアイデアを得ました。弦楽オーケストラは、他の楽器のオーケストラと違い、エレクトロニクスのテクスチャーのように自由自在に変化できる音の素材だと僕はいつも思います。最初の激しいトレモロから音域も音色も自由に変化していき、そのトレモロから次のセクションへと行く時などは、電子スタジオでつまみを回して音色を徐々に変えていっていったような感覚で作りました。「レア グラヴィティ」「マイ バタフライズ」に続く、3部作の一つです。（藤倉大）

大人ボンクリ

19:30 開演

19:00 開場

コンサートホール

楽曲シーケンス Nagie

Music Sequence: Nagie

※出演者のいない公演になります。

プログラム

Program

牛島安希子：屈折光線（世界初演）

Akiko Ushijima: Refracted ray (World Premiere)

及川潤耶：Bell Fantasia

【シュヴェービッシュ・グミュントの音の風景】より

Bell Strata2

Junya Oikawa: Bell Fantasia

- Acoustic scenery of Schwäbisch Gmünd | Bell Strata2

大久保雅基：自撮りの背景にいる男の赤い唇（世界初演）

Motoki Ohkubo: A man's red lip in the background of a selfie (World Premiere)

ジム・オルーク：Shutting Down Here (Excerpt Version)

Jim O'Rourke: Shutting Down Here (Excerpt Version)

ダリアン・ブリート：デブリ[1] // 弁証法

Darien Brito: Debris[1] // Dialectics

ハリス・キトス：アヴァリス〈貪欲〉

Haris Kittos: Avarice

檜垣智也：響きの世界の中で [スケッチ 3] (世界初演)

Tomonari Higaki: Dans le monde sonore [esquisse n°3]

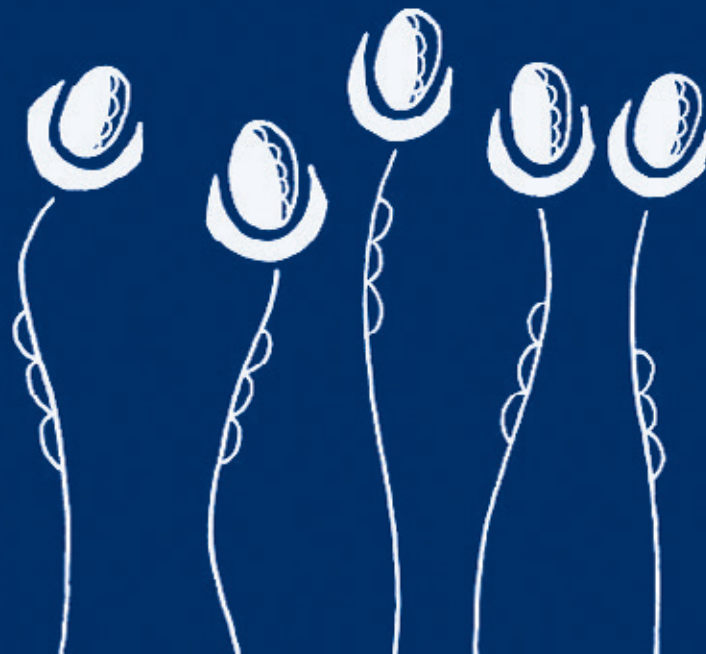
(World Premiere)

マヌエラ・ブラックバーン：Ice breaker

Manuella Blackburn: Ice breaker

※五十音順。正式な曲順は別紙をご確認ください。

2年前から恒例の大人ボンクリ。東京芸術劇場の大ホールの響きを生かし、この劇場にある音響機材のみを使って「鳴らせる」、いわばホールを楽器と見立てて、約2000席のホールいっぱいに響き渡る電子音楽を聴くコンサート。今回は僕以外に牛島安希子さん、石丸耕一さん、Nagieさん、檜垣智也さんに、作品をセレクトしていただきました。



Born
Creative
Festival
for
Grown
Ups!

曲目解説

Program notes

牛島安希子：屈折光線（世界初演）

Akiko Ushijima: Refracted ray (World Premiere)

《屈折光線》は、水中で光が屈折し、乱反射する現象から着想を得ました。近年取り組んでいる光学現象に焦点を当てたシリーズの一つです。今回の光は夏の太陽光。夏の、生と死の境界が普段より曖昧になり、過去と現在も入り乱れるような感覚をイメージしています。作品の中で使われているエレクトリック・ギターの演奏は山田岳さん、チューバの演奏は橋本晋哉さんです。（牛島安希子）

及川潤耶：Bell Fantasia【シュヴェービッシュ・グミュントの音の風景】よりBell Strata2

Junya Oikawa: Bell Fantasia

- Acoustic scenery of Schwäbisch Gmünd | Bell Strata2

仙台出身の及川潤耶さんに本作をボンクリで上演できないかと相談したところ「今年、（東日本の）震災から10年ですが、現在コロナの影響で世界中が大変な状況でもあります。この作品の体験や、制作経緯を日本そして地元仙台の人々に、これからの"平和への祈り"として共有できたら」と彼らしい慈愛に満ちたメールがすぐに届き、これは大人ボンクリでやるべきだと直感しました。ドイツで収録した鐘の音を扱った祈りのシンフォニー。劇場は一瞬で伽藍になるでしょう。（檜垣智也）

大久保雅基：自撮りの背景にいる男の赤い唇（世界初演）

Motoki Ohkubo: A man's red lip in the background of a selfie (World Premiere)

録音された音はマイクやスピーカーの特性を利用し、実際の耳で聞く音とは異なる音色や音量となり扱われる。その誇張された音がまたエフェクトなどの変化によって新たなテクスチャを生み出し音楽を形成する素材となる。スピーカーから放射された音はホールの空間音響と混ざり合い、また新たな音の質感を生み出すだろう。いくつもの変化を通してオリジナルの音を認知できない状況で、私達は何を聴くのだろうか？（大久保雅基）

ジム・オルーク：Shutting Down Here
(Excerpt Version)

Jim O'Rourke: Shutting Down Here (Excerpt Version)

ジム・オルークの本作はフランス国立視聴覚研究所(INA)の中のフランス音楽研究グループ(GRM)とオーストリアのウィーンに拠点を置く実験的なエレクトロニックインディペンデントレコードレーベルEditions Megoが始めた企画「GRM Portraits」第一弾作品。フィールドレコーディングやエレクトロニックテクスチャーなど多くの要素を駆使してダイナミックな空間を作り上げている。（Nagie）

ダリアン・ブリート：デブリ[1] // 弁証法

Darien Brito: Debris[1] // Dialectics

ダリアンはオランダの同じ学校で学び、何度か一緒にコンサートをしたアーティストです。オーディオビジュアル作品も手がけており欧州で広く活躍していますが、今回はドイツのZKMで初演された電子音楽作品をお聴きいただければと思います。《デブリ[1] // 弁証法》は純粋な合成音源のマイクロ・ソニック・トランスフォーメーションに焦点を当てた一連の3つの作品の一つです。このサイクルは以下のように構成されています。

Debris[0] // Granite -

スペクトルにおける粒状の放射速度の変化

Debris[1] // Dialectics -

激しい動きの状態と安らぎの状態を交互に繰り返す

Debris[2] // Volatility -

聴覚の状態が直面し、拡散し、融合する

各作品は、マイクロソニック現象の特定の状態を反映しています。このサイクルは、マイクロソニック現象へ持続的に魅了された結果、生まれたものです。（牛島安希子）

ハリス・キトス：アヴァリス（貪欲）

Haris Kittos: Avarice

ギリシャ人作曲家ハリス・キトス、彼は僕と同じ英国での音大の同級生。彼の方がずいぶん年上だけど。今年の大人ボンクリを選曲する時に（これは大人ボンクリ始めて以来僕のただ一つの選曲）、21年前に大学生の時に、たまたま聴かせてくれたこの作品を僕が思い出し、マスター音源を（かなり苦労して）探してもらいました。

21年も僕の頭に残っている音楽。題名の通り、音はコイン（お金）をテーブルに落とした音を元に作られている曲です。（藤倉大）

檜垣智也：響きの世界の中で [スケッチ3]（世界初演）

Tomonari Higaki: Dans le monde sonore [esquisse n°3] (World Premiere)

フランスの作家ヴィクトル・セガレン(1878-1919)の短編小説「響きの世界の中で」で描かれる様々な場面を取り上げ、自由なインスピレーションで音楽化しているシリーズの3作目である。本作では現在のエコー・エフェクトを予見するような主人公の手掛ける奇妙な機械によって音が無限に反響する部屋の響きを素描する。（檜垣智也）

マヌエラ・ブラックバーン：Ice breaker

Manuella Blackburn: Ice breaker

マヌエラはイギリス在住の作曲家です。彼女の作品は繊細な音響が素晴らしく、以前から注目していました。この作品は音響学で小さい音を扱う文脈で作られたシリーズの一つ。氷の外側の層が膨張して割れる時の亀裂の音、泡立ちや液体を注ぐ音が作品の中心となっています。2015年の夏にマンチェスターの作曲家のスタジオで制作され、同年ブリュッセルのL'Espace du sonフェスティバルで初演されました。（牛島安希子）

Artist Profile



©Maki Takagi

アンサンブル・ノマド Ensemble NOMAD

現代音楽アンサンブル
Contemporary music ensemble

ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。

[アンサンブル・ノマド]

フルート:木ノ脇道元、内山貴博
オーボエ:林憲秀
クラリネット:菊地秀夫
ファゴット:塚原里江
ホルン:萩原顕彰
トランペット:佐藤秀徳
バイオリン:花田和加子、川口静香、横山和加子
亀井庸州、三瀬俊吾、原田亮子
相川麻里子、松岡麻衣子、迫田圭
白小路紗季、養田真理、小松美穂
ビオラ:甲斐史子、岡さおり、般若佳子、齋藤彩
チェロ:松本卓也、細井唯、北嶋愛季
コントラバス:佐藤洋嗣
ピアノ:中川賢一、大須賀おかり
打楽器:宮本典子、関谷直子
ギター/指揮:佐藤紀雄

[ノマドキッズ]

荒木美袖
宇高晴斗
宇高そら
岡田楓
佐藤凜都
佐藤朱凜
鈴木一青
清野葵
清野水貴
二宮伶寧
林晴音
坂野一惺
淵田多紀
淵田鈴依
山田樹
和田いち
和田ちあ

佐藤紀雄

Norio Sato

指揮、ギター

Conductor, Guitar



©Akitooshi Higashi

ギター奏者として古典のレパートリーのほか武満徹、高橋悠治、近藤譲、松平頼暁、福士則夫などの作品の世界初演を手掛け、また指揮者としても内外の現代作品の演奏、初演を行っている。1997年にアンサンブル・ノマドを結成し、音楽監督に就任。ソロ、アンサンブルのCDも多数リリースしている。

LEO

箏

Koto



1998年横浜生まれ。9歳よりインターナショナルスクールの音楽の授業で箏を始める。カーティス・バタソン氏、沢井一恵氏に師事。16歳で「くまもと全国邦楽コンクール」史上最年少最優秀賞・文部科学大臣賞受賞。2021年4月、鈴木優人指揮・読売日本交響楽団との共演で藤倉大作曲「箏協奏曲」(委嘱新作)を世界初演。出光音楽賞、神奈川文化賞未来賞受賞。東京藝術大学在学中。

山崎阿弥

Ami Yamasaki

声、作曲

Voice, Composition



©Michael Smith-Welch

声のアーティスト、美術家。自らの発声を基に反響定位に近い方法で空間の音響的な陰影を認識し、パフォーマンスやインスタレーションによる変容を試みる。近年は量子力学に関心を持ち、科学者とのコラボレーションとラボ設立に力を注ぐ。Asian Cultural Councilフェロー(2017)、国際交流基金フェロー(2018)、瀬戸内国際芸術祭(2019)、「語りの複数形」(2021、東京都渋谷公園通りギャラリー)、「JAPAN. BODY_PERFORM_LIVE」(2022、ミラン現代美術館、イタリア)。

東野珠実

Tamami Tono

笙、作曲

Sho, Composition



©Kayoko Asai

雅楽を芝祐晴に師事。笙奏者として、90年より国立劇場主催公演をはじめ、ウィーンモデルン等に出演。ヨーヨー・マ、坂本龍一、田中泯らに招聘されるなど、古典から新作まで幅広いジャンルで創作・演奏を通じ活動を展開。雅楽演奏団体伶楽舎、現代邦楽作曲家連盟所属。星筐(Hoshigatami)の会主宰、国立劇場雅楽声明専門委員。

尺八アンサンブル「風雅竹韻」

Elegant Bamboo Ensemble / Fugachikuin

村澤寛山、柴香山、長谷川将山

風間禅寿、吉越瑛山、笠原道樹



2016年に大阪・いづみホールで開催されたコンサートを皮切りに活動をスタートし、これまでに北九州響ホール、浜離宮朝日ホールなど日本有数のホールにてコンサートを展開。音楽祭やレコーディングなど活動の幅も広がっている。2018年7月に浜離宮朝日ホールにて2年連続で収録されたライブ盤CDをリリース。尺八の持つ可能性を追求する芳醇な響きをお楽しみ下さい。

八木美知依

Michiyo Yagi

箏、作曲

Koto, Composition



©Aibano Lacro

邦楽はもちろん前衛ジャズや現代音楽からロックまで幅広く活動するハイパー箏(こと)奏者。多くのジャズ・フェスティバルのステージに立ち、世界中の優れた即興家と共演を続けるかたわら、J-POPアーティストのコンサートや録音にも参加。英ワールドミュージック誌 Songlines の《世界の最も優れた演奏家50人》に選ばれている。

大友良英

Otomo Yoshihide

作曲

Composition



©佐藤翔

ターンテーブル奏者、ギタリスト、作曲家。実験的な音楽からジャズやポップス、NHKの朝の連続小説「あまちゃん」の作曲など作風は多様多様。日本はもとより世界各地で多くのアーティストとコラボレーションを行う。NHK大河ドラマ「いだてん」の音楽を担当した。

本條秀慈郎

Hidejiro Honjoh

三味線

Shamisen



本條秀太郎に古典・現代音楽を師事。演出家蛸川幸雄らが演奏を高く評価。桐朋学園短期大学部卒。ACCフェローによりNYへ留学。ロンドンウィグモアホールソロリサイタル。文化庁文化交流使に任命されインターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブル、アンサンブル・モデルンやアンサンブル・アンテルコンタンポラン・ソロイストとコンサート。国内外の作曲家への委嘱活動も展開し国際的な活動を続けている。

木村麻耶

Maya Kimura

箏
Koto



©Maki Takagi

第17回賢順記念くめ全国箏曲祭賢順賞受賞等、受賞歴多数。国内外からの招聘、新作初演も数多く手掛け、この音とまれ!CD等、多数参加。第14回佐治敬三賞受賞。Born Creative Festival2020出演。4plus、紡ぐ糸としても活動中。橋本はるみ氏、野坂恵子氏、滝田美智子氏に師事。

小濱明人

Akihito Obama

尺八
Shakuhachi



石川利光、米谷智に師事。NHK邦楽技能者育成会修了。尺八新人王決定戦優勝。国立劇場主催「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」出演。ACCの助成によりNYに留学。ラ・フォル・ジュルネ他、多くの国際音楽祭に招待参加。海外公演は36か国に及ぶ。『古典本曲三部作 | 寂静光韻』『LOTUS POSITION with 山下洋輔』他、計10枚のアルバムを発表。学習院大学非常勤講師。JSPN会員。

本田珠也

Tamaya Honda

ドラムス、パーカッション
Drums, Percussion



©Mirei Sasaki

69年東京生まれ。父・本田竹広(p)、母・チコ本田(voc)、叔父に渡辺貞夫(as)、渡辺文男(ds)という音楽家系に育ち、若く13歳で父率いるNative Sonのドラマーとしてステージに立つ。菊地雅章、辛島文雄、ケイ・アカギ、菊地成孔らとの活動を経て日本のトップ・ジャズ・ドラマーとしての地位を確立。近年は特にフリー・インプロヴァイザーとしての腕を極めており、ベーター・ブロッツマン、八木美知依、大友良英、坂田明らと共に演奏している。

本條秀英二

Hideeiji Honjoh

三味線
Shamisen



1991年、アメリカロサンゼルスに生まれ、6歳よりピアノを始め10歳より三味線とクラリネットを始める。UCLA在学中2009年より本條秀太郎に師事し、本條秀英二の名を許される。桐朋学園芸術短期大学芸術科音楽専攻日本音楽専修卒業。本條秀太郎に現代音楽を師事した。2015年、日独青少年交流コンサートに参加「ミュンター市、エッセン市、ハンブルク市、ベート・オルデスレー市」

吉澤延隆

Nobutaka Yoshizawa

箏
Koto



東海大学大学院芸術学研究所修士課程修了。08年第15回賢順記念全国箏曲コンクールにおいて第1位・賢順賞を受賞。2021年より、異なる分野のアーティストや専門家をつなぐコンサート・プロジェクト「NOBULAB.」(ノブラボ)をスタート。また近年ではコンサート活動に加え、東京文化会館ワークショップ・リーダーとして未就学児やその家族などに対するワークショップ活動も行っている。現在、東海大学教養学部芸術学科非常勤講師。

藤舎夏実

Natsumi Toshi

囃子
Hayashi



1991年福岡生まれ。藤舎呂英、藤舎千穂に師事。2012年3月有明教育芸術短期大学卒業。2014年3月東京藝術大学音楽学部邦楽科邦楽囃子専攻別科修了。いしかわ子ども邦楽アンサンブル講師。藤舎流、真しほ会、青濤会 同人。

雫埜

DAKEI

「音のない“オンガク”の部屋」監修



舞(ろう)の舞踏家。1996年~2001年日本ろう者劇団に在籍。1997年舞踏家・鶴山欣也(舞踏工房 若衆・主宰)の誘いを受け、舞踏を始める。2000年ユニット・グループ「雫」を旗揚げし、国内外で公演・ワークショップを行う。2013年映画『わたしの名前は...』出演。2016年映画『LISTEN リッスン』を牧原依里と共同監督、小野寺修二演出作品等に出演するなど多岐にわたって活動。2019年舞踏をベースにした身体表現を模索するユニットグループ「濃淡」結成。

牧原依里

Eri Makihara

「音のない“オンガク”の部屋」監修



映画作家。ろう者の「音楽」をテーマにしたアート・ドキュメンタリー映画『LISTEN リッスン』(2016)共同監督。2017年に東京国際ろう映画祭を立ち上げ、仏映画『ヴァンサンへの手紙』の配給宣伝なども担当。「育成×手話×芸術プロジェクト」で、ろう・難聴当事者の人材育成と、ろう者と聴者が集う場のコミュニティづくり等を行っている。

檜垣智也

Tomonari Higaki

「電子音楽の部屋」監修
“Electronics Music Room” Supervisor



愛知県立芸術大学大学院修了。博士(芸術工学、九州大学)。フランス留学中に現代音楽の作曲とアコースティックの演奏で注目される。ハーバード大学、ケルン大学、Futura音楽祭等で招待公演を行う。フランス国立視覚研究所音楽研究グループ、回路の詩神、高橋アキ等から委嘱をうける。3枚のソロCD『Mahoroba』(2011)、『囚われた女』(2015)、『入院者たち』(2021)をリリース。第5回国際リュック・フェラーリ・コンクール最高賞(2003)、第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品(2014)など受賞、入選多数。東海大学准教授、大阪芸術大学客員教授。

石丸耕一

Koichi Ishimaru

「トーンマイスター石丸の部屋」講師
“Tonmeister Ishimaru's Room” Lecturer



©Hikaru

舞台音響を辻亨二氏に、オペラの音響をボリショイ劇場元芸術監督ボリス・ボクロフスキー氏に師事。歌舞伎座、新橋演舞場勤務の後、東京芸術劇場音響チーフ。劇場主催のオペラ「藤倉大 ソラリス」(日本初演)「井上道義×野田秀樹フィガロの結婚」等のサウンドデザインに携わる。昭和音楽大学講師を兼務。

永見竜生 [Nagie]

Tatsuo Nagami [Nagie]

エレクトロニクス
Electronics



マルチ・サウンドクリエイター、レコーディング・エンジニア。藤倉大/劇劇「ソラリス」(東京芸術劇場2018)にてエレクトロニクス/サウンドプロジェクトを担当。蒲池愛の現代音楽作品Maxプログラミングを行いISCM、ICMC、NIMEに入選。aikamachi-nagie、ANANT-GARDE EYESとしてCM、アニメ、映像作品のRecordingからMix、作曲を行う。卓越した音響加工の手腕が評価されている。

牛島安希子

Akiko Ushijima

作曲
Composition



作曲家。ハーグ王立音楽院修士課程修了。生命力を感じる音をテーマに室内楽作品やエレクトロアコースティック作品の制作、映像作家との共作を主に進行。作品はノヴェンバーミュージックフェスティバル(オランダ)、アルムジカ音楽祭(ベルギー)、Focus現代音楽祭(アメリカ)、Born Creative Festival 2020など、世界各地で演奏されている。国内外で受賞多数。jwcm、JSSA、JASRAC会員。名古屋芸術大学非常勤講師。

新型コロナウイルス感染症対策とお願い

- ①検温にご協力いただきますようお願い申し上げます。検温の結果により、37.5度以上の発熱が認められた場合、入場をお断りする可能性がございます。
- ②マスクの着用にご協力ください。
- ③咳エチケットやこまめな手洗い、手指消毒にご協力ください。
- ④整列や入退場、移動時等のソーシャル・ディスタンスの確保にご協力ください。
- ⑤会場内での会話は極力お控えいただき「ブラボー」などの掛け声は禁止とさせていただきます。
- ⑥クロークサービス、ブランケットの貸出、バーコーナー、物品販売、給水機は中止しております。
- ⑦出演者へのプレゼント、ご面会、楽屋口での出待ちはご遠慮ください。



東京版新型コロナ見守りサービス

東京都では、都立施設や民間店舗等でクラスターが発生した場合、訪問履歴から利用者に感染情報を通知するサービスを行っております。館内入口付近に掲示してあるQRコードを、スマホカメラなどで読み取ることでご利用いただけます。どうぞご利用ください。

アンケートのお願い


本日はご来場いただき誠にありがとうございます。今後の劇場運営に関わる資料として活用させていただきますので、大変お手数ではございますがアンケートのご協力をお願い致します。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、アンケート用紙は、当面の間お配りいたしません。お手持ちの携帯・スマートフォン等から右記QRコードを読み取り頂くか、下記URLをご参照の上、アンケートへのご入力をお願い致します。

<https://forms.gle/vmYFzPLjaoGV6S3j8>



ボンクリ・フェス2021 “Born Creative” Festival 2021

主催＝文化庁、公益財団法人東京都歴史文化財団
企画制作＝公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

 文化庁委託事業
文化庁 「令和3年度戦略的芸術文化創造推進事業」

助成＝公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
公益財団法人 かけはし芸術文化振興財団

NOMURA 野村財団

協力＝東京都

【プログラム】

発行：東京芸術劇場

デザイン：秋澤一彰 米山えみ 印刷：株式会社読売IS

発行日：2021年10月1日 禁断転載